

令和3年度 岐阜県立岐阜聾学校保護者アンケートの結果

※小数第一位を四捨五入して計算  
 ※「あてはまる」は90%以上で強調表示。「あてはまらない」は、15%以上で

番号等	項目	幼稚園部			小学部			中学部			高等部			全体			全体		
		あてはまる	あてはまらない	わからない	あてはまる	あてはまらない	わからない	あてはまる	あてはまらない	わからない	あてはまる	あてはまらない	わからない	あてはまる	あてはまらない	わからない	あてはまる	あてはまらない	わからない
教育方針	1 学校の教育方針や指導の内容に共感できる。	8	0	0	22	0	1	17	1	2	10	1	0	57	2	3	92%	3%	5%
	2 学校は、幼児児童生徒一人一人のよさや可能性を伸ばせるような工夫をしている。	8	0	0	21	1	1	14	2	4	10	1	0	53	4	5	85%	6%	8%
	3 学校は、特色ある教育活動を展開している。	7	0	1	19	2	2	17	2	1	10	1	0	53	5	4	85%	8%	6%
	4 学校では、先生と幼児児童生徒が信頼合せて活動している。	8	0	0	22	1	0	13	3	4	10	1	0	53	5	4	85%	8%	6%
	5 学校は、保護者(地域)が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気である。	8	0	0	20	2	1	14	2	4	10	1	0	52	5	5	84%	8%	8%
	6 学校は、いろいろな人との交流を大切に、幼児児童生徒の経験を広めている。	8	0	0	18	1	4	16	1	3	8	2	1	50	4	8	81%	6%	13%
家庭との連携	7 学校の教育方針や指導の内容を保護者(地域)へ分かりやすく伝えている。	8	0	0	20	1	2	15	1	4	10	0	1	53	2	7	85%	3%	11%
	8 学校は、自校の教育活動に関する自己評価を保護者(地域)へ分かりやすく伝えている。	8	0	0	19	1	3	11	3	6	9	0	2	47	4	11	76%	6%	18%
	9 学校は、幼児児童生徒の様子等について、保護者への連絡や意思疎通を積極的に行っている。	8	0	0	22	0	1	14	4	2	10	1	0	54	5	3	87%	8%	5%
	10 学校は、授業や学校行事等を多岐にわたる機会がある又は、その実施方法について新型コロナウイルス感染症の発生や拡大防止に配慮している。	7	0	1	21	1	1	18	0	2	10	0	1	56	1	5	90%	2%	8%
	11 学校は、進路に関する連絡や情報提供を幼児児童生徒や保護者に向けて適切に行っている。	8	0	0	19	1	3	15	3	2	10	1	0	52	5	5	84%	8%	8%
	12 学校の先生と幼児児童生徒あるいは保護者との懇談が十分に実施されている。	8	0	0	22	0	1	19	1	0	11	0	0	60	1	1	97%	2%	2%
教職員	13 学校の先生は、個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援をしている。	7	0	1	19	2	2	18	1	0	9	1	1	53	4	4	85%	6%	6%
	14 学校の雰囲気がよく、教職員は協力合せて生き生きとしている。	8	0	0	21	1	1	10	2	7	10	1	0	49	4	8	79%	6%	13%
	15 学校の教職員は、礼儀正しく、親切で親しみがもてる。	8	0	0	23	0	0	16	1	2	11	0	0	58	1	2	94%	2%	3%
	16 学校の先生は、幼児児童生徒に愛情をもって接している。	8	0	0	23	0	0	13	0	6	11	0	0	55	0	6	89%	0%	10%
	17 学校の先生は、幼児児童生徒たちの教育に熱心に取り組んでいる。	8	0	0	22	1	0	13	1	5	11	0	0	54	2	5	87%	3%	8%
	18 学校の先生は、専門的知識が豊かで教師としての資質を身に付けている。	8	0	0	20	1	2	12	3	4	9	1	1	49	5	7	79%	8%	11%
授業	19 学校の先生は、社会常識を身に付けており、人間としても信頼できる。	8	0	0	22	0	1	13	1	5	10	0	1	53	1	7	85%	2%	11%
	20 学校の先生は、幼児児童生徒の実態を的確に捉えている。	8	0	0	20	1	2	10	2	7	10	1	0	48	4	9	77%	6%	15%
	21 学校の先生は、働き方改革に努めている。	6	0	2	18	2	3	8	1	10	9	0	2	41	3	17	66%	5%	27%
	22 学校の授業内容や進度は、幼児児童生徒の実態に即している。	7	0	1	21	0	1	15	1	3	7	2	2	50	3	7	81%	5%	11%
	23 学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、幼児児童生徒は意欲的に取り組んでいる。	8	0	0	22	0	0	16	0	3	9	1	1	55	1	4	89%	2%	6%
	24 学校の授業は、幼児児童生徒一人一人に合った教材・教員が準備されている。	7	0	1	21	0	1	18	1	0	8	1	2	54	2	4	87%	3%	6%
その他	25 学校では、体罰の防止に努めている。	7	0	1	19	0	3	12	0	8	9	1	1	47	1	13	76%	2%	21%
	26 学校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。	6	0	2	20	0	2	12	0	8	8	2	1	46	2	13	74%	3%	21%
	27 保護者や関係諸機関の意見が個別の教育支援計画に反映されている。	8	0	0	21	0	1	16	0	4	11	0	0	56	0	5	90%	0%	8%
	28 学校は、新型コロナウイルス感染症対策を講じるとともに、医療機関と常に連携を図って、幼児児童生徒の健康管理に努めている。	7	0	1	21	0	1	17	0	3	10	0	1	55	0	6	89%	0%	10%
	29 学校は、進路指導において関係諸機関との連携をきめ細かく行っている。	7	0	1	14	1	7	10	0	10	11	0	0	42	1	18	68%	2%	29%
	30 学校は、幼児児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。	8	0	0	21	0	1	15	1	4	10	0	1	54	1	6	87%	2%	10%
学校独自の項目	31 校訓「ことば豊かに」を意識した教育の実践に努めている。	7	0	1	18	1	3	15	1	4	8	2	1	48	4	9	77%	6%	15%
	32 基礎的・基本的な知識及び技能の着実な定着と基礎学力の向上を図るため、授業改善に努めている。	7	0	1	21	0	1	14	0	6	11	0	0	53	0	8	85%	0%	13%
	33 部活動の各種大会参加や外部からの作品応募を積極的に行っている。	1	0	7	19	0	3	17	0	3	7	0	4	44	0	17	71%	0%	27%
	34 幼児児童生徒の自立に向けて、幼稚園から高等部まで一貫した教育を行っている。	7	0	1	20	0	2	16	0	4	9	1	1	52	1	8	84%	2%	13%
	35 情報機器(パソコン・タブレット・プロジェクター等)を有効に活用し、視覚情報を得やすい授業を積極的に行っている。	6	0	2	18	0	4	17	0	3	10	0	1	51	0	10	82%	0%	16%
	36 各種資格試験・検定試験に積極的に取り組むよう指導・支援を行っている。	1	0	7	17	0	5	15	1	4	10	1	0	43	2	16	69%	3%	26%
	37 保護者に対し、進路に関する情報提供を適切に行っている。	7	0	1	18	2	2	16	0	4	10	1	0	51	3	7	82%	5%	11%
	38 居住地域・居住地区交流や近隣校・施設との交流を積極的に取り組んでいる。	7	0	1	17	1	4	12	3	5	6	2	3	42	6	13	68%	10%	21%
	39 日頃から災害時を想定した、防災教育の推進に努めている。	7	0	1	20	0	2	19	0	1	8	0	3	54	0	7	87%	0%	11%
	40 学校はPTA徴収金や学校預り金(部費、給食費、寄宿舎費等)について、その予算や決算、経費の執行内容を適切に公表している。	7	1	0	21	0	1	20	0	0	10	0	1	58	1	2	94%	2%	3%

令和3年度「保護者等を対象とするアンケート」の考察 【R3.10月実施】

<幼児児童生徒数 計73人(次子・P長含まない場合：68人) 回答数：62人 回収率：91% >

1 結果の分析

(1) 『よくあてはまる』と『ややあてはまる』の合計が、90%以上の項目の過去2年間との比較

【表1 単位%】

	項 目	R3	R2	R1
教 育 方 針	1 学校の教育方針や指導の内容に共感できる。	92	94	91
	2 一人一人のよさや可能性を伸ばせるような工夫をしている。	85	89	94
	3 学校は特色ある教育活動を展開している。	85	86	92
	5 保護者（地域）が先生にいろいろなことを相談しやすい雰囲気である。	84	88	91
	6 いろいろな人との交流を大切にし、子どもの経験を広めている。	81	83	95
家庭との連携	9 子どもの様子等について、保護者への連絡や意思疎通を積極的に行っている。	87	91	92
	10 参観の機会を設け、積極的に公開している。 ※「新型コロナウイルス感染症対策を最優先にして」R2追加された	90	94	95
	12 子どもや保護者との懇談が十分行に実施されている。	97	86	98
	13 個別の教育支援計画を保護者や関係機関と連携して作成し、将来を見通した支援をしている。	85	91	91
教 職 員	15 教職員は、礼儀正しく、親切で親しみがもてる。	94	95	95
	16 学校の先生は、幼児児童生徒に愛情をもって接している。	89	84	92
	17 先生は、子どもたちの教育に熱心に取り組んでいる。	87	84	92
そ の 他	27 保護者や関係諸機関の意見が個別の教育支援計画に反映されている。	90	86	89
	30 幼児児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。	87	88	95
学校独自項目	39 日ごろから災害時を想定した防災教育の推進に努めている。	87	89	94
	40 P T A徴収金等の執行内容を詳細に公表している。	94	94	97

昨年度と比較して90%以上の項目は6項目である。80%以上の高評価の項目が28項目あり、例年通り概ね高い評価をいただいている。

中でも、昨年度より数値(%)が増加した項目は、「23 授業には、体験的な活動が取り入れられ、幼児児童生徒は意欲的に極的に取り組んでいる」(+14%) 「24 授業は、幼児児童生徒一人一人に合った教材・教具が準備されている。」(+12%) 「12 先生と幼児児童生徒あるいは保護者との懇談が十分に実施されている。」(+11%) 「34 幼児児童生徒の自立に向けて、幼稚部から高等部まで一貫した教育を行っている。」(+9%) となった。

昨年度大きく減少した数値(%)の項目の中に、「23 学校の授業には、体験的な活動が取り入れられ、幼児児童生徒は意欲的に取り組んでいる」は、昨年度(-11%)と落ち込んだが、今年度は(+13%)の評価をいただけた。「33 部活動の各種大会参加や外部への作品応募を積極的に行っている。」(-12%)は、今年度は(+5%)となった。昨年度「38 居住地園・居住地校交流や近隣校・施設との交流を積極的に行っている。」は前年度(-5%)の減少だったが、今年度さらに(-7%)の評価となった。

上記の評価については、少なからず新型コロナウイルス感染症対策の影響があり、学習支援

の取組、また、対外的な交流活動等に於いては相手校（施設）の受け入れの影響で例年のような活動ができないことも原因の一つであると考えられる。

(2) 『あてはまらない』と『あまりあてはまらない』の合計が15%以上の項目の過去2年間との比較

今年度も、15%以上の項目はなく、全体的に昨年度比は－となっている。しかし、「3 学校は特色ある教育活動を展開している。」(+3%)、「38 居住地園・居住地校交流や近隣校・施設との交流を積極的に取り組んでいる。」(+4%)であり、今後改善に努めていきたい項目である。

(3) 『わからない』が20%以上の項目の過去2年間との比較

【表2 単位%】

項 目		R3	R2	R1
教 職 員	21 学校の先生は、働き方改革に努めている。	27	30	45
	25 体罰の防止に努めている。	21	19	23
そ の 他	26 いじめや差別を許さず、厳しく対応している。	21	20	28
	29 進路指導において関係諸機関との連携をきめ細かく行っている。	29	28	23
学 校 独 自	33 部活動の各種大会への参加や、作品展示会等外部への働きかけを積極的にしている。	27	31	20
	36 各種資格試験・検定試験に積極的に取り組むよう指導・支援を行っている。	26	25	39
	38 居住地園・居住地校交流や近隣校・施設との交流を積極的に取り組んでいる。	21	19	16

「21 学校の先生は働き方改革に努めている。」の評価については、保護者の皆には評価が難しく、今年度も27%以上となった。しかし、昨年比では－3%となり、少しずつ状況を理解していただけているものとする。今年度も継続して情報提供に努めていきたいとする。

また、「37 保護者に対し、進路に関する情報提供を適切に行っている。」は(－5%)であり、昨年度からの改善ができたとする。

## 2 今後の課題

今年度も(2)『あてはまらない』『あまりあてはまらない』が15%を超える低い評価の項目はなかった。しかし、「38 居住地園・居住地校交流や近隣校・施設との交流を積極的に取り組んでいる。」が10%であり、新型コロナウイルス感染症対策を継続しながらも、新しい方法を模索していく必要がある。

コロナ禍のため、学校の様子が見えにくくなっている今、HPや学校だより等も活用しながら、開かれた学校づくりをしていきたい。また、部によって評価の違いがあり、各部の実情に応じた改善に向けた取組に進めていきたい。

保護者が期待する聾教育の専門性の向上や教師としての資質向上については、各自が意識をもち、個々の研修や授業改善に努めることを推進していきたい。また、身に着けた専門性を保護者とともに共有していく場を持つようにしていく必要がある。

今年度も(1)『よくあてはまる』『ややあてはまる』の高い評価が多くあったのは嬉しいことだが、これが一過性のものにならないために、保護者との連携を密にして個に応じた指導・支援に努めるとともに、多くの情報を発信し、さらに開かれた学校づくりに努めていきたい。